



## 「表現の多様性を生かす」～教材・教具の工夫を通して～

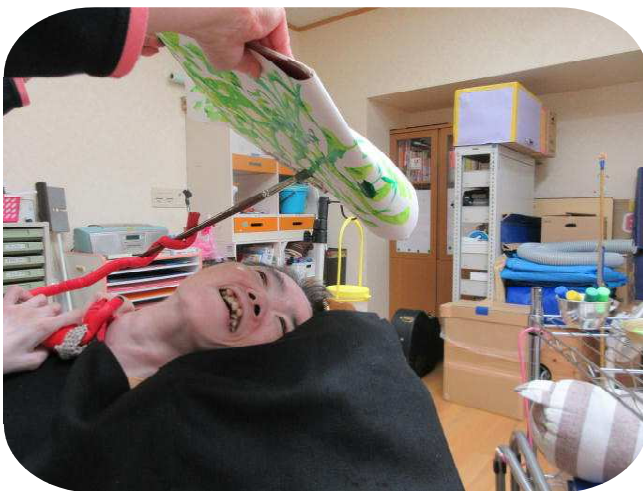
本分教室の児童生徒は、それぞれの表現方法を使って気持ちを表します。しかし、障害等により動かせる身体部位は限定され、その可動の範囲もわずかです。言葉の表出が難しい児童生徒にとっては、このわずかに動かせる身体部位が大切な表現方法の一つです。

この身体部位の動きにコミュニケーション手段の一つとして意味付けをしたり、動きを使って制作活動につなげたりできるよう、個に応じた支援を工夫しています。児童生徒一人一人の状態に応じた教材・教具等を作成し、活用していくことが本分教室（教師）の大切な日常的営みの一つです。

高等部2年のDさんは、前腕部を動かすことが得意です。この動きを使って絵などを描くために、百円ショップで購入した「簡単ねじり止めソフトワイヤー」に筆を固定した教具を使います。

自分で動かした筆により用紙が色づいていく様子に、とても満足気な様子<sup>さま</sup>のDさんです。

引き続き、教材・教具の工夫などにより、児童生徒の豊かな表現を引き出したり、児童生徒が学びを実感できる学習活動につなげたりしていきたいと考えています。



【自分で筆を動かし絵画に取り組みます】



【教具】

※本ホームページに「教材・教具の紹介」コーナーがあります。併せて御覧いただければ幸いです。